

2019.05.05 礼拝原稿「模範教会への回帰」

愛する兄弟姉妹の皆さん、こんにちは

はじめに、まず、国際關懷協会（ ）全体を代表してみなさんにご挨拶申し上げます。教会の歴史の中で取り上げられるものは多くありますが、特に模範として挙げられる教会が二つあります。一つ目は、皆さんもよくご存じの、使徒の働き 13 章に挙げられたアンテオケ教会で、パウロとバルナバという二人の大事な使徒を送り出した教会です。もう一つが、今日私たちが見ていきますテサロニケ教会です。この二つの教会はともに宣教に関係しています。テサロニケ教会は当時相当な窮地に陥っており、6 節でパウロが書いたように「多くの苦難の中」にいました。パウロの宣教活動は現地のユダヤ教徒の暴動にも遭いましたが、テサロニケ教会は福音を受け取った後に自らを改め、外に向けて福音を発信していくようになりました。

先ほど 5～10 節の部分からパウロがいかにテサロニケ教会を褒め称え、励ましたのかが分かりましたが、このような教会は 21 世紀に生きている私たちも見習うことが出来るものです。これらの御言葉から少なくとも 3 つの事を私たちは学べるのではないのでしょうか。一緒に祈りましょう！

1. キリストに教会を学ぶ

1 章のはじめにパウロ、シルワノ、テモテの三人が連名でテサロニケ教会へ手紙を出しています。2～3 節では三人がテサロニケ教会のために神に感謝し、その信仰の働き、愛の労苦、キリストへの望みの忍耐を思い起こしていることについて触れました。続いて 4 節で、パウロはテサロニケ教会が神からほかのクリスチャンたちの模範となるように選ばれたことについて書きました。そして、5 節からパウロは三つの「なぜ」：なぜテサロニケ教会が神に選ばれ、模範の教会となるのか、についての説明を行っています。

みなさんどうぞ第 5～7 節をご覧ください。この 3 つの節では一つ目の「なぜ」について知ることが出来ます。みなさんはこの 3 つの節のつながりにお気づきでしょうか？ 5 節；あなたがたのために、どのようにふるまい、6 節；あなたがたもみことばを受け入れ、私たちと首都にならうものになり、7 節；すべての信者の模範になったのです。もしも NIV 翻訳（新国際版聖書）を見たら、この三つの関係はパウロが先に模範としてあり、テサロニケ教会がそれに倣う、そして今度はテサロニケ教会が異邦人たちの模範となる、というように「一段ずつの模倣」になっていることが分かります。

みなさん、「あなたがたのために、どのようにふるまったか」というのは一種の命の表現です。わたしは若いころから台湾 CEF の影響を受けていますが、CEF の中にはある非常に有名なことばがあります：生命、生活、仕事。この三つの順番は命の証が生活の態度に影響し、生活の模倣は仕事の結果につながるという意味です。神様に近づくための生命は私たちの源です。パウロの働きはその命をもって行われました。彼がテサロニケ教会に伝えた福音は単に聖書の教えだけではなく、神のおおいなる力、聖霊の働き、そして十分な信仰でした。これらすべては福音と呼ぶべきものです。しかし、みなさん、もしパウロの人となりとその伝えるところの福音と異なっていましたら、果たしてテサロニケ教会の人々はそれでも受け入れていたでしょうか？

エペソ 4:1～3 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び

合い、平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。

愛する兄弟姉妹たちよ、私たちは自分の命と私たちの信仰が一致しているかどうかについて真剣に考えなければなりません。また、私たちの言動が一致しているかどうかについても考えなければなりません。最初に見てきたのはパウロの人となりでした。

第二に目にするのはテサロニケ教会の模範のさまです。それはつまり彼らがパウロに、キリストに倣っているということです。英語版の聖書では imitator ; 注意深く見る、ということばで描写されています。ヘブル：13:7 神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならなさい。 ここでいう結末はよいものにもなれば、悪いものにもなりうるため、宣教者にとっては晩節を全うできない不安が付きまといまいます。私自身すでに 60 を超えています、私がちょうど 60 歳の時、ある牧師夫人がその夫である牧師が 60 歳になったときに finish well という英語の言葉を贈っていたことを思い出します。みなさんはどのようにこの言葉を訳すのでしょうか？中国語にも善終ということばがありますが、私はそれを晩節を全うすると訳そうと思います。

聖書の中にはエリという人物がいますが、皆さんは彼が誰だかご存知でしょうか。そうです、エリとはサムエルの師であり神に仕える祭司でしたが、その子供は神様を侮り、その捧げものを食べてしまいました。エリはまさしく晩節を全うできなかった例と言えるでしょう

またみなさんに第 6 節を見て頂きたいと思います：あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。 この前後の順番にぜひご注目ください。聖書の中には前後の順序から大事なメッセージをもたらす例は多くありますが、皆さんもよくご存じの詩篇 23:6 まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。 ここでは私が先に会って、恵みが後ろにあります。私がどこにいても、筑波でもほかのどこにいても、恵みは私を追ってきます。すばらしいこですしかし、これにも前提があります。2:私を…いこいの水のほとりに伴われます。3:御名の為に、私を義の道に導かれます。 これは主が前にあって、私が後にあります。これが前にあるからこそ、恵みが私を追って来るというような順番が生まれるのです。聖書をよく見てみれば、このような面白さが多く隠されていることがわかります。

6 節に戻りましょう。ここではさきに「パウロに倣う」とあり、その後に「キリストにならう」とあります。一般的にはさきにキリストに倣うを挙げると思われますが、ここでは逆になってしまっています。これは人々がイエス様の模範を目にする前に、まずは私たちのような「顔」である宣教者を目の当たりにして、そこからキリストの姿を見出すからです。私がこのメッセージを準備していた時、同時に私がパウロにならうことができているがために、兄弟姉妹たちが主に倣うことを妨げていないかを反省します。「キリストの教えは聞くに値するが、見るには至らない」という言葉を聞くことがあります、これは教えに問題があるのではなく、私たちがあがままに神様の教えを生きることが出来ず、やりたいこととそうでないことを選んでいるからなのです。これをはたから見れば支離滅裂なものであるため、未信者の方はこの信仰に惹かれるはずがありません。

また、imitators という英単語は複数形でありますので、テサロニケ教会は一部や少数の人だけ

ではなく、多くの人々がキリストの模倣者であることがわかります。この教会はパウロが残した人となりの模範と彼ら自身の倣おうとする姿勢が合わさることで変化が起り、証となりました。

三つ目に、7節：こうして、あなたがたは、マケドニアとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。テサロニケ教会はキリストに習っただけではなく、ほかの地方の模範となり、マケドニアとアカヤにあるすべての信徒の見本となりました。見本という言葉はとても面白く、ギリシャ語では手紙に封をする封蝋の印鑑を意味します。パウロはこの印鑑の比喻を使い、テサロニケ教会の人々がまるで印を押したようにほかの人々の生活に影響を残したと称賛しています。この見本という字は英語では a model でありますように単数であり、テサロニケ教会がギリシャ地区の信徒たちの見本であることを指します。

以上、三つの関係を見てまいりました：パウロの人となりがあり、テサロニケ教会がパウロとキリストに倣い、そして異邦人たちの模範となること。私が現在奉仕しています「国際關懷協会」の宣教に置ける策略には二つあります：一つは開拓、建堂、信徒の訓練を行うことで、もう一つが専門宣教です。私たちが教会を設立するときにはこれらのことについて考えなければなりません：私たちはテサロニケ教会に倣うことができるのか、宣教師たちは人々がパウロの人となりやキリストに倣うことを見い出せるような模範になれるのか。私自身の失敗例を挙げましょう。数年前、私がカンボジアの医療宣教に参加した際に、ある女の子を見かけました。しかし、二年後に再び訪れた際にはその姿が見えなかったため、同僚の宣教師に尋ねると、「姿が見えないというのはカンボジアでは大抵売られてしまったことを意味するよ」と言われました。なんと悔しかったことでしょうか。私は償いのチャンスすらもらうことが出来ないのです。

2. 命を変える教会

二つ目の「なぜ」、9:私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、10:また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出して下さるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。

パウロはテサロニケ教会を称賛する二つ目の「なぜ」は彼らの変化、すなわち偶像を捨てて神に立ち返り、奉仕し、イエス様の再臨を待ち望むようになったことです。テサロニケ教会の信徒が主を信じるようになった後、その生命には明らかな変化が生まれました。信じる前日までには酒を飲み、姦淫やその他の罪を心のゆくままに犯していましたが、信じた直後にすぐさまこれらのことをやめ、偶像を捨てました。パウロが挙げた「立ち返る」という言葉には決断の意味が含まれています。決断のほかにも原点に立ち返り、特に人の信仰と行動を指して、神が喜ぶ本来の姿に向かうことを表しています。テサロニケ教会はキリストを主として迎えるとただちに偶像を捨て、二度と偽の神には向かいませんでした。陳牧師は「神は人に一つしか顔を与えなかった。人が真の神に向いてるとき、それは偽の神に背を向けていることになる」と言ったように、これは生命の変化なのです。

偶像は偽の神のほかにも存在します。それは私たちの心身や時間、金などを占有するものでもあります。現代人の多くが「ネット」の毒に犯されています。みなさんにお聞きしますが、みなさんは携帯電話などの通知音が鳴った時、すぐに見に行きませんか？ネットを通じて、私たちは見てはいけないものも多く目にすることが出来ます。以前は少なくともパソコンを開かなければなりませんでしたが、今では携帯をかざせばボタン一つスワイプ一つで開くことが出来るため、すぐに見ないと決心するのがより困難になりました。これらのものも偶像になり、人々を迷い込ませることが出来ます。皆さんは変わることを望みますか？

アメリカで最初に中国へ来た宣教師のイライジャ・コールマン・ブリッジマンはこんな名言を残しています：「私は矮小だけれども、私の行動は多くの人、ひいては全中国に影響を及ぼすだろう」。確かに、私たち個人の生命の変化がもたらす影響については軽んじることが出来ません。今日の教会でイエスを信じるのはキリストが「良いもの」だから、平穏が、喜びが得られるからだ、という人は少なくありません。しかし、もし生命が成長し、生活に変化をもたらすことなく、ただキリストを自分の中の一部としてとらえ、必要な時に一方的に求めるだけ求め、事が終わればまた勝手に忘れてしまうような信仰なら、果たしてそれは救われていると言えるのでしょうか。私は甚だ心配です。

続いて御言葉ではマケドニアやアカヤの人々がテサロニケ教会は真に生ける神に仕える模倣だと話しています。新約時代におけるギリシャの労働者には二種類あります：一つは自由労働者で、決まった労働時間の中で働き、時間が過ぎれば家に帰れました；もう一つは奴隷で、主人に身を売り、自分に決定権がないものです。パウロがテサロニケ教会の人々を称賛したのは偶像崇拜を離れたことに加え、その生命や時間を奴隷のように真に生ける神にささげた事でした。もしも私たちの生命に変化がなければ、それは偽物の死んだ命です。そんな命のままで、どうして真に生ける神に仕えることができましょうか。

そして、10 節にイエスが天から来られるのを待ち望むようになった、とありますが、ここでの「待ち望む」には待ち「続ける」意味も含まれています。キリストは私たちの為^にに死して復活されただけでなく、再臨されます。そのためクリスチャンは絶えず「主の再臨を待ち望む」心を持たなければなりません。なぜなら主が再臨される時には神の罪に対する怒りにも直面するからです。しかし、イエス様は私たちの救いになります。主の償いは成功に終わった一度きりの物でしたが、救いは何度も、継続してあるものです：コリント II 1:10 ところが神は、これほどの大きな死の危険から、私たちを救い出してくださいました。また将来も救い出してくださいます。テサロニケ教会は忍耐をもってキリストの再臨を待ち望みました。それはマケドニアやアカヤの信徒たちの間でも語られ、パウロのを 受けました。

3. 主のことばを宣べ伝える教会

最後に第 8 節から三つ目の「なぜ」を見てみましょう。主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニアとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆるところに伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。主のことばはテサロニケ教会から宣べ伝えられました。これが宣教の教会であり、パウロが参照するなの理由です。テサロニケ教会は主の言葉を受け入れるだけではなく、そこで終えることなくさらに広め伝えました。教会の歴史を見てみると、パウロが夢の啓示からマケドニアに入り、主の言葉をヨーロッパに持

ち込んだとき、ヨーロッパの教会はそこでとどまることなくさらにアメリカ、アフリカ、アジアへとそれを広めました。ロバート・モリソン（英国、中国に最初にわたった宣教師）が中国へ渡ってから 200 年余りが経ち、OMF の成立からも 150 年ほどが経ちました。私たちがこうしてここに座ってられるのも、直接的間接的にかかわらずこれらの宣教師の影響を受けたと言えるのではないのでしょうか。これが出入りがあるということであり、CEF の啓示が「福音が中華に入り、中華から出ていく」である所以です。我々華人は主の言葉による恵みを受けたと同時に、それを宣べ伝える責任も伴ったのです。

もう一度 8 節を見てみましょう。主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆるところに伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。 みなさんはここで伝わっているものが二つあることにお気づきでしょうか。一つは主の言葉であり、もう一つは神に対するテサロニケ教会の人々の信仰なのです。主の言葉が宣べ伝えられることは彼らが受けた使命ですが、その信仰の姿が広まることは彼らの証なのです。テサロニケ教会は神の教えを重んじる教会であるだけでなく、その生きざまをもって証をした教会でもあります。彼らは神への信仰から各地の信徒にその信じる場所の神について証をして宣べ伝えたため、パウロは何も言わなくてよいほどなのです。

8 節のあなたがたの信仰は NIV の英語版では **your faith in God** と訳されます。テサロニケ教会の信仰は神の上に建立されたもので、ほかの人やモノの上に成り立つものではないのです。なにも波風が立たないときにはみな大きくは違いませんが、いざ挑戦や困難が訪れた時にその信仰が立ち現れます。もし私たちが信仰を目に見える金や建物、学歴、権力や地位に建てたとしたら、それはなんともったいないことなのでしょう。そのどれも真に生ける神には及ばないのです。

最後に私が知っている教会の証の話をしてメッセージを終わろうと思います。この教会はここ数年会計の事に置いて、神の御恵みにより、兄弟姉妹の方々から少しずつ献金が募り、講堂のローンを払えるほどに余裕がありました。この教会は設立されてから 10 数年たちますが、途中で財務が非常に苦しく厳しい時期もありました。そこで彼らが足ると足らないの差について突き詰めていった結果、信仰との絶対的な関係を見つけました。

その教会の属する宗派では毎年の献金の総額から 10 分の一をほかのもっと必要がある教会や宣教団体、新学院などに送ることになっており、彼らはそのうえでさらに 10 分の一を献金することを決めていました。しかし、彼らが出費を惜しんで自分たちの為にとっておいたとき、真っ先に節約の対象としたのがそのもう 10 分の一の献金でした。これは人の性であり、神の上ではなく金銭の上に信仰を積み重ねているのです。結果、それは財務が非常に苦しく厳しい時期に当てはまったのです。けれども、後に彼らが再びそのもう 10 分の一の献金を差し出したとき、神様が彼らのために、それも予想を超えるほどの用意をしてくださることに彼らは気付くことになりました。

この証から、私たちは神様の法則と世間のルールは完全に異なることに気づくことが出来るでしょう。世間ではまず自分の事、余裕があるときに人の事を気遣い、要らない余りをほかの人に与えます。しかし神様は真逆を行きます。神様は最高の物を人に与えます。これが神に対するあなたがたの信仰であり、施す方が受ける方より恵みを得られることの証です。あなたが差し出すほど、神はあなたに与えます。

どうぞみなさんもテサロニケ教会の模範を習って、二つの事を伝えましょう：ひとえに主の言葉を伝えることで、主への信仰も人々に広まります。

今日私たちはテサロニケ人への手紙 第一を通して黎明期の教会が残した模範について学びました。テサロニケ教会は苦境の中にいましたが、キリストに倣う教会であり、さらには他の地方の信徒の模範となりました。二つ目の模範はこの教会の生命が変化したことであり、彼らは偶像を捨てて神に向き直り、主イエスの再臨を待ち望みました。そして最後の模範は神の言葉を受けて、彼らはそこでとどまることなくさらに宣べ伝え広めたことであり、その信仰のありさまが証となった事です。どうか神様が筑波福音基督教会を祝福し、ほかの人の模範となれるようにしてくださいることをお祈りしています。